

# SENKEN

## 高級プレタから109 シヨップデザイナーへ



香月 ノリコ

**東大門の活気に触れ**  
香月ノリコさんは、商社作りのために毎年帰国に出向く。ソウルのホテルで夢中になってデザイン画をかいている。かつては高級プレタ・フリコ・カズキのデザイナー。80年代には東京コレクションにも参加していた。その後、韓国を舞台にファッションデザイナーとして活躍している。

ブランドとして操作を続けていた。しかし、今は「カリス」に負けぬくらい、大活躍している。香月ノリコのシヨップ・チュウ

チュウのオーブ、つまり香月さんが就任したのは昨年三月、一年生の間にシヨップ・デュ・エール(フランス)・チャイム・スチエール(三時)・御先十一店舗になり、さらに全国から出店要請が相次いでいるという。

香月さんがこの任に就任することになったのは、ソウルの東大門市場の活気

## 軽やかでみずみずしく 新へアライン発表



昨年、J日A(ジャパン)へアドレッシング・アワーに待つと触れる、この間わ

スガ発表した(2000)に〇〇一年ニユールインを賞賛は、みずみずしく軽やかな質感の表現がポイントだ。さきから聞かされたシヨップ発表では、セラフィックがテーマ、いつか僕自身を夢見る。天使のような女性。キエーミッシュは作品はシヨップとロマン、フロンに想像の両輪がありながら、どちらかめづかな表現で実践のサロワークでは、アドバイスやケアを前提に、日本人特有の毛流れや動き、色を見直しながらそれだけのスタイルに落とし込んでいくという。

わかっていない。でも、確かに変わった部分もあるけれど、香月さんは109のファッション、今、を感じるという。

「いくら自己満足できるものを作っても、マーケットからお呼びがかかることなく落ち込む、求められ、喜ばれて会費が大きくなっていく楽しさは、やってみたいと分らない。」

もし外側の人間だったら、「指をくわつても、私も、あんなにファッションじゃやない」と言っていたと思うと、香月さん、デザイン画にいかにも通っているスタイルのいい女の子の服を作るのがおもしろい。この服を作るのと同じくらい、絶対的に体形に合わせながら、着る人を変えていきたいような生き方は、もうしたくないのだぞと、

「女の子たちの服を作っているにも関わらず、何か言いたいものでもうつけたい、いまはほとんども満足している、というのが答え」といって。

## 「もうオバサン服には戻らない」

とラビド感を体験したから、イタリアにいら生地のヌツカに任じみ世界のテキスタイル展を見ても香月さんには、無駄に華やかさを見本、色もすべてがその場で買える。現物と、何メートル買えばいいか、しかも、トレンド感があがり、早くも、まだ、まだ、目から鱗が落ち、

知人に紹介され、109にシヨップを出すことに、一月で商品がなくなり、必然的に流行の先駆者としてスタッフの要請はすぐデザイナーに生かされた。(「チュウ」109シヨップで)

## 最前線ファッション 作ることによるこび

「〇〇に今感じるのは、もう消えないんじゃないか。」

以前、香月さんが作っていたものと比べると、価格は十分の一だ。「クオリティは確かに劣るけれど、見劣りはしない。以前作っていた服との十倍の価値があったかと思うと、そうじゃないと思うわ。」

「〇〇に今感じるのは、もう消えないんじゃないか。」

「指をくわつても、私も、あんなにファッションじゃやない」と言っていたと思うと、香月さん、デザイン画にいかにも通っているスタイルのいい女の子の服を作るのがおもしろい。この服を作るのと同じくらい、絶対的に体形に合わせながら、着る人を変えていきたいような生き方は、もうしたくないのだぞと、

「女の子たちの服を作っているにも関わらず、何か言いたいものでもうつけたい、いまはほとんども満足している、というのが答え」といって。



## 「死刑」がテーマ 広ベネトンの告

メンズファッションの企画。広告で毎回話題を呼んでいるベネトングループの。〇〇年春夏のキャンペーン

タビユーを軸としていく。写真、「刑罰制度の問題を論じるためのはな、死刑の現実を広く論議してもら



「刑罰制度の問題を論じるためのはな、死刑の現実を広く論議してもらわなければならない」とい

写真とイメージは、一年以上たつた米国の刑務所の写真監獄を訪ねた写真家、同社クリエイティブ・ディレクターのオリビエロ・トスカニ氏が行った。二月下旬から日本の雑誌にも掲載する。

## ブライダルシーンを変える

団塊ジュニアが結婚適齢期を迎え、晩婚、再婚が増え続けるなどブライダル需要に変化が見られます。パリコレクションにも、これまでのウエディングシーンをガラリと変える新しいドレス、スーツが登場するようになっていきました。話題を呼んだヨウジヤマモトのウエディングドレス20点をはじめ、ジャン・ポール・ゴルチエ、シャネル、ヴィクター&ロルフ、バルナール・ウィルヘルムなど有名ブランドと、新人ブランドの新作ウエディングドレスを集めて「ミレニアムドレス展——ヨウジヤマモトとパリのクチュリエたち」を開催します。ウエディングドレスのイメージを一新するパリのデザイナーたちの力作をこの期待下さい。



ヴィクター&ロルフ

## ミレニアムドレス展 パリのクチュリエたち

出品デザイナー＝ヨウジヤマモト、ジャン・ポール・ゴルチエ、ヴィクター&ロルフ、シャネル(カール・ラガーフェルド)、ドリス・ヴァン・ノッテン、バルナール・ウィルヘルム、ジャン・シャシー(アレキサンダー・マックイーン)、シェレル(ステファン・ローラン)

主催＝ミレニアムドレス展実行委員会

会期＝2月16日(水)～27日(日)、午前11時～午後8時(入場は午後7時30分まで)

場所＝アニヴェルセル表参道・地下1階

後援＝朝日新聞社  
協力＝七彩、TFP、日本メナード化粧品MAPS、ウォルフード・ジャパン

入場料＝一般1000円、学生800円